

行雲流水

No.257 令和4年10月25日発行

読書と映画

校長 寒河江 正人

生徒諸君。

今年の夏休みは、どんな本と出会えたかな。

それとも、いろいろといそがしくていそがしくて読めなかったかな。

私は、お盆休み期間に「**自分の課題図書**」として、2冊だけと決めて読んでみた。

まず1冊目は、**東野圭吾さんの「沈黙のパレード」**。

そして、2冊目は、**深町秋生さんの「ヘルドックス・地獄の犬たち」**。

どちらも、すぐその「こまつ書店」で文庫本を購入した。

選んだ動機は、どちらも**映画化**され、9月中旬には**全国公開**が決まっていたからだ。

あらかじめ原作本を読んでおいて、登場人物やストーリーなどのイメージをふくらませ、

1ヶ月後には、映画館でもう1度楽しもうという計画。

どちらの映画も、よくできていた。おもしろかった。

「**沈黙のパレード**」は、**福山雅治さん**主演の人気シリーズ「ガリレオ」映画版第3弾。

変人でありながら、天才的な頭脳をもつ物理学者・帝都大学教授・湯川学。

生徒諸君もよくご存じなのではないだろうか。

もう一方の「**ヘルドックス・地獄の犬たち**」は、**岡田准一さん**主演のクライムサスペンス。

警視庁の潜入捜査官・兼高昭吾の葛藤の姿。

結果的に、続編の「**煉獄の獅子たち**」、「**天国の修羅たち**」まで、3冊読むことになった。

小説やコミックスが原作で、映画化・ドラマ化されることは多い。

映画やドラマ・アニメなどが先で、ノベライズされることも多い。

どちらが先だろうと、そんなことは構わない。

自分なりの楽しみ方、味わい方があればいい。それは、自由だ。

さて、次は、何を読もうかな。